

矢作川流域圏懇談会 第9回全体会議

6月 岡崎市

9月 豊田市



中山間地振興の活動情報を共有・ネットワークづくりを支援
事例集交流会2019



流域一体化に向けたイベントに参加
2019矢作川感謝祭

10月 碧南市

11月 長野県松川町・大鹿村



流域一体化に向けたイベントに参加
三河湾大感謝祭



土砂の問題について、市民部会発のイベント
勉強会

日時：令和2年2月25日 14:00~16:30
 場所：西三河総合庁舎

5. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和元年度の活動スケジュール

《令和元年度の当初目標》

9年間の取り組みの成果をとりまとめるとともに、「豊かな三河湾の再生に向けた取り組み」について、ひきつづき情報共有と意見交換を行う。

＜テーマ＞

豊かな三河湾の再生
に向けた取り組み

＜解決手法＞

○アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、海のモニタリングによる情報の蓄積および市民への情報発信を推進する。

海部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第40回WG（22名）	8月7日（水） 13:30-16:00	・西尾市役所会議棟 第4会議室
第41回WG（20名）	9月18日（水） 13:30-16:00	・西尾市役所会議棟 第3会議室
第42回WG（19名）	11月5日（火） 13:30-17:00	・矢作川浄化センター ・西尾市役所会議棟 第3会議室
第11回海部会 まとめの会（20名）	12月24日（火） 15:00-17:00	・西尾市役所会議棟 第4会議室

5. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和元年度の活動成果

今年度の活動方針に対する進捗状況

＜アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換＞

○ 吉田漁業協同組合の石川組合長、東幡豆漁業協同組合の石川組合長からアサリ漁獲量の推移について話題提供をいただき、三河のアサリ漁業の実態について情報共有を行った。

- アサリの漁獲量について、昨年度は不漁とはいえ、現物を見せることができた。今年は、漁場に貝らしきものがほとんど見当たらない状況です。アサリに関わる漁業者の中には、職を変えたり、船まで処分する者も出てきている。



意見交換の風景（第40回海部会WG）



漁業者からの現状報告

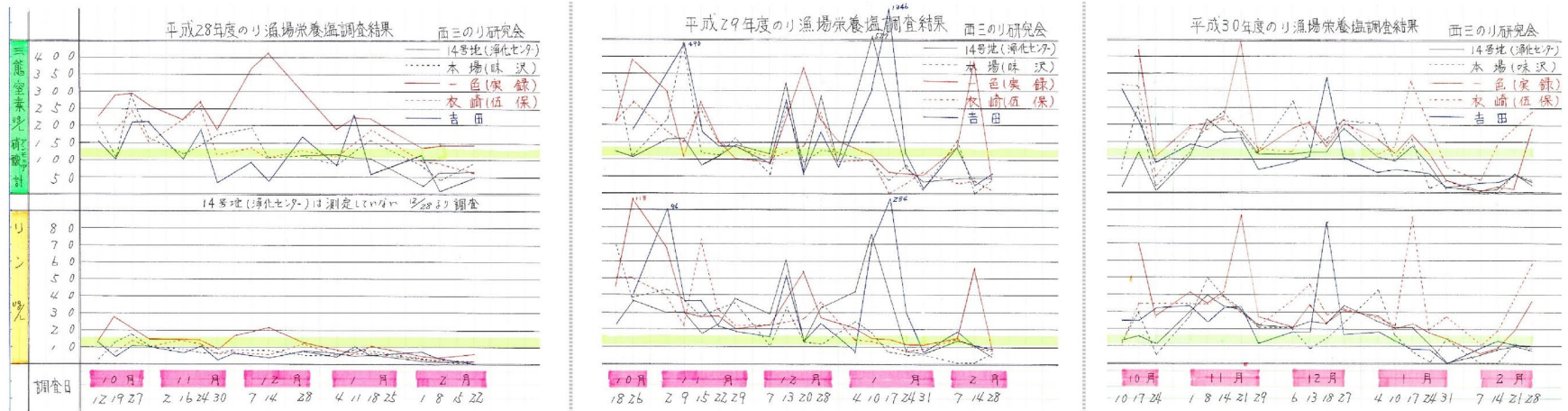


5. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和元年度の活動成果

＜海のモニタリングによる情報の蓄積および市民への情報発信を推進する。＞

○ 矢作川浄化センターにおいて、栄養塩の試験放流について話題提供をいただいた。吉田漁業協同組合石川組合長よりのり漁場における近年の水質の変化について話題提供をいただき、意見交換を行った。

- 平成28年より西三のり研究会が、三河湾8つの海域で栄養塩類とプランクトンの調査を行っている。その結果、のりの生育に向かない塩類濃度であること、水温が高すぎるということがわかった。
- 平成30年度より矢作川浄化センターにおいて、栄養塩の試験放流が行われている。現時点では、アサリの漁獲が昨年度よりも悪化しており、試験放流の効果がみられない状況である。一方で、のりでは品質面での向上がみられ、県には今後とも栄養塩の試験放流を継続してもらえよう、県にお願いをしている。



吉田漁業協同組合石川組合長よりご提供いただいた海の水質調査結果 (抜粋)

5. (2) 海部会の10年のふりかえり

①流域年表（海部会）

詳細は、「資料4」をご覧ください。

矢作川流域圏年表案（海部会）																		
項目	1950	1960	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	矢作川流域圏懇談会活動期間							
	()は和暦	(S25)	(S35)	(S45)	(S50)	(S55)	(S60)	(H2)	(H7)	(H12)	(H17)	2010	2015	2020				
												(H22)	(H27)	(R2)				
＜社会＞	人口(愛知県)			・539万人	・592万人	・622万人	・646万人	・669万人	・687万人	・704万人	・726万人	・741万人	・748万人					
	高齢化率(65歳以上)																	
	人口(西尾市)			・7万人	・8万人	・8万人	・9万人	・9万人	・9万人	・10万人	・10万人	・10万人	・10万人					
	高齢化率(65歳以上)												・24%					
	第1次産業人口(愛知県)			・10.1%	・6.8%	・5.4%	・4.7%	・3.7%	・3.3%	・3.0%	・2.9%	・2.3%	・2.2%					
	ダム事業			・矢作ダム竣工(1971年)		・矢作川緊急河床低下対策施工(1986年)		・矢作川豊田地区東海豪雨対策着手(2000年)						・矢作古川分派施設完成(2016年)				
＜行政＞	法律			・水質汚濁防止法、海洋汚染防止法施行(1971年)				・河川法改正(1997年)	・水産基本法(2001年)	・矢作川水系河川整備計画の策定(2006年)		・水循環基本法(2014年)						
	指針、制度			・海岸法制定(1956年5月)				・環境影響評価法(1997年)	・漁業基本法(2001年)	・矢作川水系河川整備計画の策定(2006年)		・水循環基本法(2014年)						
					・CODを指定項目とした水質総量削減制度(1978年)				・漁業整備基本方針の公表、第1次漁港整備事業開始(2002年)			・COPI0(2010年)						
					・東京湾、伊勢湾、瀬戸内海の集水域を指定地域とした総量削減の適用(1980年)				・第5総量規制に窒素、リンを加えた総量削減計画が決定(2002年)									
									「閉鎖性海域の環境に関する国際会議」開催(1996年)				閉鎖性海域中長期ビジョン策定(2010年)	産廃・干潟ビジョン策定(2016年)				
	下水道整備			・矢作川浄化センター事業着手(1972年)				・矢作川浄化センター供用開始(1982年)										
＜自然災害＞	全国における災害		・伊勢湾台風(1959年9月)					・阪神・淡路大震災(1995年1月)				・東日本大震災(2011年3月)	・九州北部豪雨(2017年7月)					
	矢作川における災害		・台風23、25、26号及び秋雨前線による水害(1971・渇水(沖根を除く全国)(1986年)					・東海豪雨/恵南豪雨(2000年9月)		・平成20年8月末豪雨(岡崎豪雨)(2008年)								
＜流域の動き＞	公的機関			・伊勢湾富栄養化対策指導指針_リン8%削減(1982年)			・三河湾生物環境検討会(1982年)	・三河湾再生生物環境検討会(1997年)		・伊勢湾再生行動計画策定(2007年)								
							・豊田市矢作川研究所設立(1994年)		・三河湾流域圏会議(2007年)、三河湾流域圏再生行動計画(2008年)									
									・三河湾再生推進特別チーム設置(2008～2010年)									
							・福江湾大規模増殖場造成事業(1982～1988年)		・六条湾アサリ稚貝採捕制度スタート(1999年)			・三河湾環境再生プロジェクト(2012年～)	・三河湾大感謝祭、三河湾環境再生体験会					
							・三河湾シーブルー事業採択(1988年)	・シーブルー事業試験工事開始(1998年)	・伊勢湾流域圏一斉モニタリング(2009年～継続中)			・流域(下水道)リン管理運転開始(2017年)						
								・三河湾"環境再生推進協議会(1990年)、中山水道航路浚渫を使った干潟・浅場造成(1999年)			・矢作川流域圏懇談会設立(2010年～)							
											・矢作ダム埋積砂を使用した干潟・浅場造成事業(2008年～)							
							・西広瀬小学校矢作川の水質測定開始(1976年)						・愛知県産廃環境・生態系保全対策協議会設立(2009年)					
	市民団体		・矢作川沿岸水質保全対策協議会設立(1996年)				・矢作川環境技術研究会設立(1986年)											
							・矢作川流域開発研究会設立(1971年)	・矢作川をきれいにする会設立(一色町:1973年、豊田市:1976年)										
＜海の生態(愛知県全体)＞	漁業関係							・竹島、吉良アサリ貝発生(1991年)	・三河湾アサリ貝発生(2001年)									
								・空梅雨、猛暑でアサリ被害発生(1994年)	・六条湾昔塩アサリ稚貝発生(2001、2002年、2007年、2008年)									
									・伊勢湾沿岸アサリ不漁(1996年)・シラスウナギ不漁(2002年～)									
	アサリ漁獲量(t)								10,499			17,835	16,703	17,562	16,063	10,563	8,282	3,973
	アサリ稚貝採捕量(t)								1,390	3,462		2,892		3,184				
ノリ経営体数			7,015	3,684	2,604	1,895	1,248	935	567	454	279		215					
＜環境＞	OOD(mg/L)					2.2	2.1	2.6	2.8	2.6	2.3	2.3	2.2	2.2	2.5			
	全リン(mg/L)								0.07	0.05	0.04		0.04	0.04	0.04			
	全窒素(mg/L)								0.58	0.41	0.39		0.37	0.41	0.38			
	三河湾赤潮発生回数							20	20	20	29							
	三河湾干潟の面積(ha)		2,627(1945年)		1,367(1978年)			1,549(1989年)		1,526(1996年)								
三河湾埋め立て面積(ha)	16(～1955年)		32(～1965年)	660(～1975年)		1,708(～1985年)		2,073(～1995年)		2,343(～2005年)								
三河湾産場の面積(ha)		949(1973年)		923(1978年)		638(1989年)		570(1996年)										
＜海の状況＞	マイクロプラスチック認識									・東海豪雨によるごみの漂着(2000年)			・22世紀の衆生の浜プロジェクト(2012年～)					
										・藤前干潟ラムサール登録(2002年)			G7)マイクロプラスチックごみ問題の認識(2015年)					

※干潟・浅場の面積は、調査回によって定義が異なることから、単純比較はできない。

5. (2) 海部会の10年のふりかえり

②海部会の10年のふりかえり一覧

詳細は、「資料5」をご覧ください。

課題	テーマ	これまでの課題	これまでの取組み	見えてきた課題	今後の試み
海の生き物をとリまく課題	ごみ・流木の問題	問題の構造の共有からの解決策への発展 他部会との認識共有	山部会との合同部会で、東幡豆トンボロ干潟周辺のごみの状況を把握（平成27年）	目に見えるごみから、目に見えないマイクロプラスチック等の問題の共有	奈佐の浜プロジェクト等にも目を向けた参加も視野）現状の把握
	豊かな海の生物調査	他部会を巻き込んだ調査	東幡豆、西浦地区の2地点で、生き物調査を行った。山部会と協働して、干潟の試験造成後の生物相の変化を確認した（平成25年・平成27年）		
	豊かな海の再生	「透き通った海＝豊かな海」という疑問の共有	矢作川浄化センターを見学し、栄養塩類の試験放水の状況を学ぶとともに、実際の水質の変化について、情報共有と意見交換を行った。（令和元年）	「透き通った海＝豊かな海」ではないという認識の周知	流域のイベントや市民部会を通じた「豊かな海」の情報共有と発信
海と人の課題	海と人の絆再生	海部会が主導となる活動	流域のイベント（奥矢作森林フィスティバル、矢作川感謝祭、三河湾大感謝祭）における海の生物の展示（平成28～令和元年）	継続した啓発が必要	海の生き物に触れ合うことによる上下流連携の継続
	干潟・ヨシ原再生	ダムの土砂投入実験の範囲拡大	矢作ダムの砂を活用した干潟造成の試験施工について、関係者の協力を得て実現した。その後、生物相の把握を行うなど、試験造成の効果を確認した。（平成26～平成30年）		

5. (2) 海部会の次年度の活動目標（案）

次年度の活動目標（案）

- 10年の取り組みをふりかえりながら、アサリの問題、マイクロプラスチックの問題、土砂の問題に対して、情報共有と意見交換を行う。

テーマ別の活動目標（案）

■ごみの問題

- ごみの質も以前とは変化している。特にマイクロプラスチックの問題は、拾って処分できるものではないため、最新の情報を共有する。

■豊かな海の再生に向けた取り組み

- アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識の周知を行う。

■海と人との絆再生

- 海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす。
- 土砂移動に関する情報共有を行う。